

『黄金分割』から見た株価の見方（第15回）

kuwayama

2005年7月19日

先月6/20に日経平均株価は「11,800円まで戻せば上出来」とした見方が7/15に達成した。5/17の安値10,788円から2ヶ月で1000円高の戻り相場であった。「外人買い」が継続している。「原油」が60ドルまで上昇したにもかかわらず、NYがしっかりしている。とりわけNASDAQが堅調である。目先11,800~12,000円のゾーンは大きな抵抗帯であろう。しかし今回は、「信用売り残」が1兆4000億円台と過去3番目の高水準にあること。「企業業績」など基本的な経済指標が好調であり、「景気は踊り場を抜けつつある」と見られるなどから、大きな下げはない様に思える。欧州やアジア各国など海外の株高を考えると日本の株価は出遅れていると見える。「テロ」や「原油」相場、人民元の早期切上げ観測などを気にしながらも、3ヶ月サイクルなどのテクニカルな循環的な押し目は11,500円近辺であろうと見る。むしろNYの10,800ドル~10,900ドル乗せ、NASDAQの2200~2300辺りがあるかもしれない。そうすると待望の12,000円抜けも案外実現するかもしれない。ただ8月中旬の「参議院」での郵政民営化法案の動向次第で「政治問題」が頭をもたげる可能性がある。政局の混乱が株価の重石になりかねない。さて「黄金分割」では10,770円(安値4/20) 13,000円(14,200円)であるが、11,900~12,189円は大きな高値の節である。「原油」は60ドル中心に高値もみあいだが、「タンカー運賃」が大きく下落して居り、在庫に「余剰感」が出ているとも言われている(日経7/4)。「為替」は年初から指摘していた通り「円安」が的中した。102円 123円が「黄金分割」、当面108~112.60円と見る。104円から112円へと円安が早く進行したので、しばらく揉みあい場面か。いずれ115円へと見る。8月に人民元の切上げがあれば、4~5円幅で円高に振れる場面があるかもしれない。しかし年末には120円と見ている。「黄金分割」の見方である。

さて個別銘柄を「黄金分割」で見てみよう。まず始に1月20日前後から2月初旬高値の6ヶ月期日が今週から来る銘柄に注目したい。フィールズ(2767)は61.5万円高値(36.4万円 43.9万円、47.7万円、51.4万円、58.9万円)7/15現在43.3万円である。ワコム(6727)は93.4万円高値(67.8万円 81.8万円、88.7万円、95.7万円、109.6万円)7/15現在69.3万円。楽天(4755)は12.7万円高値後に11.9万円高値(7.02万円 8.5万円、9.2万円、9.7万円、11.3万円)7/15現在92,100円。ソフトバンク(9984)は5140円高値(3690円 4450円、4830円、5210円、5970円)7/15現在4500円。ヤフー(4689)は56.7万円(株式分割後28.3万円)(20.8万円 25万円、27.2万円、29.4万円、33.6万円)7/15現在23.5万円。

次にソニー(6758)は3770円 4550円、4940円、NEC(6701)は568円 685円、744円、野村(8604)は1295円 1570円、1700円、松井(8628)は1084円 1310円、1420円、が「黄金分割」の見方であるが、これらの銘柄は第一波動を形成するのに相当の力を要する。基本は右上がりの「トレンドライン」に入ったかどうかを確認する事である。投資判断は「自己責任」でお願いします。株式は元本保証ではありません。